

この場合どうつける？

脳卒中リハビリテーションのためのADL評価

内山侑紀 (兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座 准教授)

橋本幸久 (兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部 作業療法士)

梅地篤史 (兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部 作業療法士)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は<https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/>をご参照ください。

▶ 登録手続

1. はじめに p2

2. 機能的自律度評価法 (FIM) の概要 p3

3. FIMの基本的な採点方法とポイント p4

4. 採点ポイントと採点に困るケースの具体例提示 p8

1. 運動項目

セルフケア

- ① 食事
- ② 整容
- ③ 清拭
- ④ 更衣 (上半身)
- ⑤ 更衣 (下半身)
- ⑥ トイレ動作

排泄コントロール

- ⑦ 排尿管理
- ⑧ 排便管理

移乗

- ⑨ ベッド・椅子・車椅子
- ⑩ トイレ
- ⑪ 浴槽・シャワー

移動

- ⑫ 歩行・車椅子
- ⑬ 階段

2. 認知項目

コミュニケーション

- ⑭ 理解
- ⑮ 表出

社会的認知

- ⑯ 社会的交流
- ⑰ 問題解決
- ⑱ 記憶

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

4. 採点ポイントと採点に困るケースの具体例提示

1. 運動項目

セルフケア

① 食事

採点のポイント

食事が適切に用意された状態で、適当な食器を使って食物を口に運ぶ動作から、咀嚼して嚥下するまでが評価対象として含まれます(図1)。食事の採点で注意すべきポイントは、配膳や下膳は含まれないことです。また、食事の前にその場で食べ物を切りわけ、食べこぼしの後始末などを介助者にしてもらっている場合などは、準備と考えて5点まで下げますが、調理場で食形態を調整している場合は食事自体に介助者は必要ないため、5点ではなく6点となります。その他のポイントとしては、胃瘻や経鼻チューブにより経管栄養管理となっている患者の場合、1食でも介助者に注入してもらっていれば1点となります。

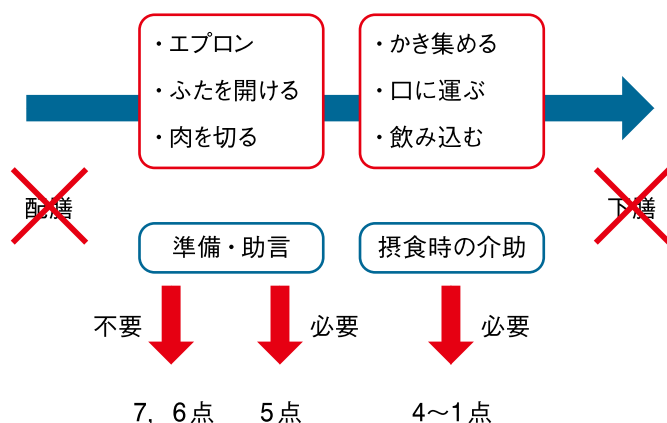


図1 食事の採点の流れ



動画 1 食事FIM5点

食事の配膳後に食べ物を刻んでもらう



動画 2 食事FIM4点

最後のすくいにくい部分だけスプーンですくって口元に運ぶ介助が必要



動画 3 食事FIM3点

スプーンですくって口元に運ぶまでの25%以上, 50%未満を介助している



動画4 食事FIM2点

スプーンですくって口元に運ぶまでの50%以上, 75%未満を介助している

採点に困るケースの具体例

Q1. 食事のときだけ義歯をつける場合は、装具と同じ扱いにしてよいですか？

A. 義歯をつけている場合は6点，義歯の準備や装着に介助が必要な場合は装具に準じて5点と評価します。

Q2. 圧迫骨折などでベッドのギャッチアップ制限があり，おにぎり対応や食事介助をしている場合はどうなりますか？

A. 食事のおにぎり対応は6点，安静度でのベッドのギャッチアップ制限時は実際の食事の介助量で採点します。一方，食事のための姿勢の調整などは準備に相当します。

Q3. がん患者などで，経口摂取とCVポートを併用している場合は何点になりますか？

A. 経口摂取と経管栄養を併用している場合は，日内変動があると考え低いほうで採点を行います。CVポートも経管栄養に準じて，経口摂取と併用している場合でも1点とします。

Q4. 経口摂取は監視が必要で、水分補給のため、水分のみ胃瘻または経鼻チューブから全介助で眠前に注入している場合はどうなりますか？

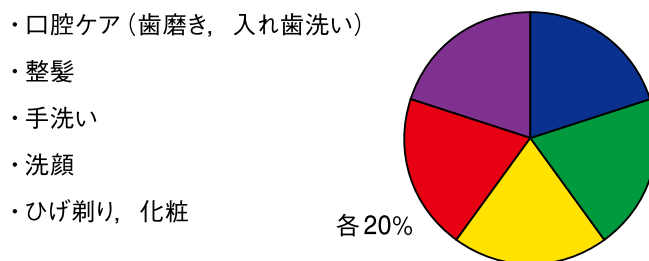
A. 水分は本質的には食事になるので、介助が発生していると考え4点にします。

(内山侑紀)

②整容

採点のポイント

口腔ケア、整髪、手洗い、洗顔、ひげ剃りまたは化粧の5つの要素を評価対象とします(図2)。採点方法としては、全体のうち本人がしている割合と介助者にしてもらっている割合から考えます。つまり、5つの要素それぞれが1/5(20%)ずつの割合を占めると考えて、本人がしている割合をすべての要素の平均値から計算し、最終的に1~7点で採点します。ただし、5つの要素のうち、本人がまったくしていない(介助者もしていない場合)要素がある場合は、それを除外して残りの要素のみで採点を行います。たとえば、5つの要素のうち2つの要素をまったくしていない場合は、残りの3つの要素の割合をそれぞれ1/3(約33%ずつ)と考え、3つの要素の平均値で採点します。



必要な道具を準備するところから評価

図2 整容の採点が必要な5つの要素



動画5 整容FIM5点

口腔ケア(歯磨き): 歯ブラシやコップを準備してもらう



動画6 整容FIM4点

口腔ケア: 最後の仕上げに介助が必要



動画7 整容FIM3点

口腔ケア: ブラッシングはすべて介助が必要だが、口腔洗浄は自立している